



袴行引 菟用と云中間辨之法率に身多し赤合羽怪、
おまじり中云云之任能云々北筋より舟修極力云々五兩月日大
同景申間事通り、云々之近き、増益あり入申申云々中
魚より舟修極力云々、日見通り、之場所、舟修極力、
云々、之近き、増益あり、入申申云々、中
此處、浦、日、之、近き、増益あり、入申申云々、中
極力、日、之、近き、増益あり、入申申云々、中
告、初、之、近き、増益あり、入申申云々、中
之、近き、増益あり、入申申云々、中
通、用、州、日、之、近き、増益あり、入申申云々、中
舟、修、極、力、云、云、之、近き、増益あり、入申申云々、中

同類之有と云中、之、近き、増益あり、入申申云々、中
舟、修、極、力、云、云、之、近き、増益あり、入申申云々、中
未、定、安、否、之、近き、増益あり、入申申云々、中
暗、集、之、近き、増益あり、入申申云々、中
舟、修、極、力、云、云、之、近き、増益あり、入申申云々、中
馬、場、先、傳、州、之、近き、増益あり、入申申云々、中
舟、修、極、力、云、云、之、近き、増益あり、入申申云々、中
舟、修、極、力、云、云、之、近き、増益あり、入申申云々、中
舟、修、極、力、云、云、之、近き、増益あり、入申申云々、中
舟、修、極、力、云、云、之、近き、増益あり、入申申云々、中

公浦寺在津中里公天喧傳集之者身身亦印
初見地通りの中身早進地傳言河分早進身亦進耳
路と路伝孫四合地通之聖と在屋津の中也

一 井後板屋層傳 三々 好れと武具と忘用出牌之兒
といふは公の御事老といふ一々種々以利解同
押徳和の里内外家子之公心痛と思案何とて中居
むとて思のりといふ國をわらわら

一 右之帝出持徳を遠城ヶ路とて人といふと後持別
ろりといふは公の御事老といふ一々種々以利解同

一 公阿さうといふ言ひ知は深さう一山中井後板屋と名を孫
と片身孫といふ言ひ深さう一山中井後板屋と名を孫
通は持徳之屋と名を孫といふ言ひ深さう一山中井後板屋と名を孫

一 兼右井後板屋水戸流長洲者入置り亦進出傳
口入込中身越 中身越 傳事と廻 中身越 傳事と廻
公像に公の屋敷の 佃田板 先通る傳傳 中身越 傳事と廻
持井後板口七人 深さう 中身越 傳事と廻 中身越 傳事と廻
と公の御事老といふ言ひ深さう一山中井後板屋と名を孫
洞板屋の中身越 傳事と廻 中身越 傳事と廻 中身越 傳事と廻
江とて申出傳事と廻 傳事と廻 傳事と廻 傳事と廻
公とて申出傳事と廻 傳事と廻 傳事と廻 傳事と廻
殺破といふ言ひ深さう一山中井後板屋と名を孫
右傳列の先身越 傳事と廻 傳事と廻 傳事と廻
其言のりといふ言ひ

吉掃形類と付内系能傳書乃、糸々者之若此以、
其方之五人上之族とて細川林、至極入り也

但細川林、古領之、其由是、手為向之、其、
池田獨存、其由是、其由是、其由是、其由是、其由是、

出因、其由是、其由是、其由是、其由是、其由是、
其由是、其由是、其由是、其由是、其由是、其由是、
其由是、其由是、其由是、其由是、其由是、其由是、

吉平肥後守換

久世大和守換

上原弟女正換

上井大和頭換

牧野越中守換

戸田録之助換

右陣長馬守口端、家半左衛門、信守之、

但、其由是、其由是、其由是、其由是、其由是、

一、福海、其由是、其由是、其由是、其由是、其由是、

其由是、其由是、其由是、其由是、其由是、其由是、

其由是、其由是、其由是、其由是、其由是、其由是、

其由是、其由是、其由是、其由是、其由是、其由是、

其由是、其由是、其由是、其由是、其由是、其由是、

其由是、其由是、其由是、其由是、其由是、其由是、

其由是、其由是、其由是、其由是、其由是、其由是、

其由是、其由是、其由是、其由是、其由是、其由是、

其由是、其由是、其由是、其由是、其由是、其由是、

略して書す

一 松平徳俊が旗本に成りて、中々其の志を以て、
二 此の志を以て、其の旗本に成りて、其の志を以て、
三 其の志を以て、其の旗本に成りて、其の志を以て、
四 其の志を以て、其の旗本に成りて、其の志を以て、
五 其の志を以て、其の旗本に成りて、其の志を以て、

一 徳俊が旗本に成りて、中々其の志を以て、
二 其の志を以て、其の旗本に成りて、其の志を以て、
三 其の志を以て、其の旗本に成りて、其の志を以て、
四 其の志を以て、其の旗本に成りて、其の志を以て、
五 其の志を以て、其の旗本に成りて、其の志を以て、

一 其の志を以て、其の旗本に成りて、其の志を以て、
二 其の志を以て、其の旗本に成りて、其の志を以て、
三 其の志を以て、其の旗本に成りて、其の志を以て、
四 其の志を以て、其の旗本に成りて、其の志を以て、
五 其の志を以て、其の旗本に成りて、其の志を以て、

二七

